〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

7月号
第61巻 第6号
2016年

無料
Free

もくじ

今月の1枚 …… 1ページ
・企画展「鹿島槍ヶ岳カクネ里　氷河への道のり」の開催にあたって
付属園だより …… 2ページ
・「どうぶつ写生大会」入賞作品のご紹介
博物館のひろば …… 3～4ページ
・付属園アカマツ枯死木の伐採、付属園まつり 他

博物館施設案内はこちら

企画展初日に行われたミュージアムトーク風景

企画展「鹿島槍ヶ岳カクネ里　氷河への道のり」の開催にあたって

鳥羽　章人

カクネ里雪渓は、鹿島槍ヶ岳の奥懐にあって容易に人を寄せ付けない厳しい環境下にあります。この雪渓が氷河である可能性を最初に指摘したのは1930年、生態学・人類学者である登山家の今西錦司氏でしたが、本格的な調査により報告したのは、地形学者であり鳥瞰図作家であった五百澤智也氏でした。五百澤氏は、1950年代の複数回にわたる調査によりこの雪渓下の氷体の存在を明らかにし、氷河の可能性がきわめて高いことを指摘しましたが、その後は60年以上調査が中断されておりました。

2012年（平成24年）、富山県立山カルデラ砂防博物館による調査研究により、立山・剱岳に3つの氷河が発見されました。このことも背景にありカクネ里雪渓を見直す動きが顕在化していきました。

2014年（平成26年）、大町山岳博物館・信州大学・富山県立山カルデラ砂防博物館・長野県環境保全研究所により発足した「カクネ里雪渓（氷河）学術調査団」は、天候不順等によるたび重なる調査中断を余儀なくされたものの、翌年度には調査隊の現地派遣に成功し、雪渓下の氷体確認とその移動量の測定に関し有意なデータを得ることができました。

これにより、カクネ里雪渓が氷河である可能性がほぼ確実な状況となり、この結果は、既に調査団によって関係学会に口頭発表されております。引き続き学術論文として公表する準備が進められていますが、今後は、正式に認定されることにより大町市が「カクネ里氷河のある街」として、その魅力が一層高まることを期待しております。

結びに、本企画展の準備・実施に当たり、貴重な資料をご提供いただきました富山県立山カルデラ砂防博物館、千葉県立中央博物館を始め、関係の皆様方には多大なるご協力をいただきました。記して心から感謝申し上げます。

（市立大町山岳博物館館長）

付属園だより

どうぶつ写生大会　入賞作品のご紹介

４月29日（金・祝）～５月５日（木・祝）まで開催した「どうぶつ写生大会」に参加いただいた全作品を「日本動物園水族館協会中部ブロック動物写生大会」へ応募しました。

その結果、長野県知事賞、長野県教育長賞、日本動物園水族館協会長賞、日本動物園水族館中部ブロック特別賞、大町市長賞、大町市教育長賞、山岳博物館館長賞において７人の皆様が受賞されました。各賞を受賞された７人の皆様、おめでとうございます。ここでは紹介できませんでしたが、金賞・銀賞・銅賞を受賞された16人の皆様もおめでとうございます。受賞された作品だけでなく、いずれも豊かな発想や細やかな観察によって描かれた個性豊かな作品ばかりでした。

全作品は動物写生画展として６月18日（土）から７月３日（日）の間、山岳博物館の講堂で展示しておりますので、ぜひご来館ください。

≪長野県知事賞≫　坂井　亜優　「春のきつね」

≪長野県教育長賞≫　傘木　倖愛紀　「かわいいライチョウ」

≪日本動物園水族館会長賞≫　栗林　凰芽「ホンドギツネ」

≪日動水中部ブロック特別賞≫　傘木　小優紀　「自然にいきたい」

≪大町市長賞≫　長澤　天子　「空をみるキツネ」

≪大町市教育長賞≫　深澤　瑞姫　「元気なレンくん」

≪山岳博物館館長賞≫　西澤　蓮「のんびりなカモシカ」

博物館のひろば

山岳博物館　市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第３日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。
（これらの日については、大町市民以外の長野県民は団体割引料金でご観覧いただけます。）
７月は 16 日（土）と 17 日（日）です。

付属園のアカマツ枯死木の伐採

平成28年4月12日（火）実施

大町市の東山周辺では、アカマツの枯死の害が徐々に増え、山岳博物館周辺でも見られるようになり、大町市はその都度、伐採を進めてきました。

付属園のアカマツ２本も昨年に枯死が認められ、伐採することになりました。この木の周辺には飼育施設が隣接しているので、動物を一時避難させ、付属園を閉園にして作業を行いました。付属園の見学を予定されていた皆様には大変ご迷惑をおかけ致しました。

樹齢は90~100年でした。山岳博物館が現在の地に移転して来たのが、1957（昭和32年）ですので、２本のアカマツは博物館の歴史を見守ってきたのでしょう。

天理教の皆さんによる博物館周辺の除草ボランティア

平成28年4月29日（金・祝）実施

ゴールデンウィークの初日、今年もまた100名程の天理教の皆さんが家族連れで、博物館や大町公園周辺の草取りやゴミ拾いのボランティアをしていただきました。

年間を通じて除草などのボランティアをしていただいている友の会の皆さんのほか、地元神栄町の皆さんによるゴールデンウィークを挟んだ１ヶ月余りの長期間に及ぶ大町公園周辺のゴミ拾いなど、様々な地域の団体、個人の皆さんに支えられながら博物館周辺の美観に努めていただいていることに対し、あらためて感謝を申し上げます。

第15回北アルプス雪形まつり雪形写真展と雪形ウォッチングの開催

平成28年5月14日（土）～6月12日（日）

恒例となった大町市の北アルプス雪形まつりも、６月12日（日）の「雪形ステージ」をもってフィナーレを飾りました。これに先立つこと約１ヶ月前の５月14日より、今年も南北安曇地域に伝わる雪形の写真展を、市中央通りの「ギャラリーい～ずら」において開催致しました。

今年は、写真家で雪形研究家の丸山祥司さんによる、人々の暮らしを前景に写し込んだほのぼのとする雪形の写真20点が会場を飾り好評でした。

また５月15日（日）、29日（日）の２日間、雪形鑑賞スポットを巡る「雪形ウォッチング」を開催し、各地の雪形を見学しました。

大町登山案内人組合創立100周年記念事業実行委員会設立総会の開催

平成28年5月17日（火）実施

（写真：個人蔵）

大町登山案内人組合は、1917（大正６）年に全国で初めてとなる登山案内人の組織として設立されました。

今も設立当時の精神が脈々と受け継がれ、現在、約40人の会員が登山ガイドとして活躍され、来年の2017(平成29)年で設立100周年を迎えます。

この度、大町登山案内人組合創立100周年記念事業実行委員会が設立され、組合の功績とその存在や、当市の山の魅力を全国へ発信し、山岳観光の振興のための事業が計画され始めました。

山岳博物館としても実行委員会の一員として、事業実施に協力してまいります。

付属園まつり

平成28年4月29日（金・祝）～5月5日（木・祝）

山岳博物館付属園とそこで飼育・栽培する動植物について、より身近に感じ、親しみをもっていただこうと毎年実施している「付属園まつり」をゴールデンウィーク中に開催しました。付属園まつりのさまざまなイベントの中で、特に子どもに人気の「どうぶつスタンプラリー」は、飼育員手作りのスタンプを押しながら園内を回るというものです。１日のうちに何度も回ってくださる方や毎年変わるスタンプの絵柄を楽しみにして来てくださっている方が多くいらっしゃいました。

また、飼育員が飼育動物を解説しながら案内する「どうぶつ観察ツアー」では、飼育動物の特徴や性格などを始めとして、傷病鳥獣として保護された動物たちの飼育理由などを紹介しました。ツアーの後には大町市の公式キャラクター「おおまぴょん」が登場し、多くのお客様とふれあいました。遠方から「おおまぴょん」に会いに来てくださる方もいらっしゃいました。

今年は全イベントを通じて577人に参加いただき、付属園でのイベントを楽しんでいただけたように思います。今後も付属園を活用した教育普及事業を展開し、動植物や自然環境について向き合う時間を提供していきたいと思います。

サクラソウ移動栽培展示

平成28年４月29日（金）～５月22日（日）

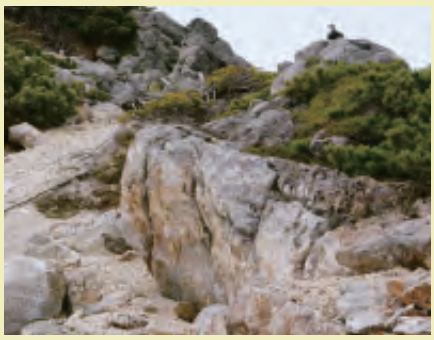
今年も大町山岳博物館友の会サークル「ボランティアの会」の皆さんの協力のもと、博物館で栽培しているサクラソウ（長野県絶滅危惧Ⅱ類）約800鉢をＪＲ信濃大町駅隣の「公園ひろば」に移動させて、展示を行いました。

駅を利用される国内外の観光客をはじめ、往来する地域の皆さんにも楽しんでいただけたものと思われます。

博物館では、このほか、付属園において、ササユリなどの長野県版レッドリスト掲載種の生活史を中心とした研究を行い、栽培展示を通して、地域の自然について理解を深めていただいています。

ライチョウの営巣調査

平成28年５月28日（土）～６月７日（火）



環境省はライチョウ飼育の創始個体を乗鞍岳から採卵する方針として、産卵中あるいは抱卵中の巣を探す調査を実施しました。調査に携わったのは環境省の職員をはじめ生息域内研究者、調査経験者、動物園関係者等です。山岳博物館からは指導員、学芸員、飼育員の３人がそれぞれ４日間参加しました。

この時期のライチョウは、ほとんどが産卵中で巣を探すのは極めて困難です。調査は２～３人が１チームとなって、ひたすらメスの行動を観察して巣を捜索するものです。今回の調査で10個の巣を確認することができました。

神城活断層の借馬トレンチ 鹿島川扇状地の礫層分析

平成28年６月～　調査

平成26年秋に大町市借馬の水田で活断層のトレンチ発掘が行われ、鹿島川扇状地に堆積した礫層が神城断層によって約２ｍずれていることが発見されました。

その際、地層断面に樹脂を塗付して剥ぎ取った大型標本（3.8×2.8m）が、大町公園に移設展示されました。残念ながら、樹脂の経年劣化のために観察が困難になり、標本の廃棄が計画されています。

この標本は地層資料としても貴重であり、廃棄前に礫層の分析が行われています。礫の供給源や運搬-堆積プロセスを明らかにするうえで貴重なデータが得られるものと期待されます。

大町南小学校５年生・大町西小学校５年生のキャンプ

平成28年６月３日（金）・６月９日（木）

山岳博物館では、捕まえた昆虫などの生き物のなまえをただ教えるという従来の自然観察を刷新し、３年前より小学校が実施する青木湖キャンプにおいて「自然と人とのかかわり」をテーマにクイズ式のプログラムの提供をはじめました。

これまでに大町市立大町西小学校と大町北小学校からご依頼をいただき、自然科学系の学芸員と人文科学系の学芸員の２名が赴き、パネルや実物を示しながら、面白おかしく実施させていただきました。

昨年からは、木崎湖におけるプログラムの提供をはじめ、大町東小学校にご利用いただいたほか、今年は新たに依頼のありました大町南小学校のキャンプにおいて、さらに改良を加えたプログラムで実施させていただきました。

また、嬉しいことに隣村の松川村立松川小学校５年生が行う青木湖キャンプでも、今年からプログラムを提供させていただくことになりました。

このように博物館では、市内外を問わず、学校が青木湖や木崎湖で行うキャンプにおいて、プログラムを提供し、お手伝いをさせていただきますので、お気軽にご相談いただければ、幸いです。

大町幼稚園が遠足で付属園や館内展示を見学！

平成28年５月27日（金）

５月27日に大町幼稚園の園児の皆さん33人が遠足で当館を訪れました。

朝のうちは雨が少し降っていましたが、元気あふれる園児の皆さんのパワーによって!? 雨も上がり、博物館前の大町公園の芝生の上で遊んだり、お弁当を食べたりすることができました。付属園では動物たちを間近に観察し、館内では2階展示室のライチョウなど動物のはく製に、とくに興味津々のようすでした。

当館では、身近な博物館として、幼稚園・保育園の園児の皆さんの見学を、いつでもお待ちしています。ぜひお気軽に遊びに来てください。

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM
―創立1951年―

〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com

7月号
第61巻 第6号
2016年

発行日　2016（平成28）年６月25日

印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010